



女医の三冠と三関門（トピックス 女医問題II）

森, 美也子

(Citation)

神戸大学医学部神緑会学術誌, 16:97-98

(Issue Date)

2000-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81007664>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007664>



女 医の三冠と三関門

神戸大学医学部麻酔科 森

美也子 (58年卒)

講義に赴くと随分女性が増え華やかなのに驚く。気がつけば筆者の所属する麻酔科も約半数が女性ではないか。麻酔科は外科系のなかでは一番女性が多いようだ。他の科からローテートしていただいている先生方によれば麻酔科も華やかなのだそうだ。うーん、確かに、美女が多いし賑やかだし。

さて、なぜ麻酔科に入ったかという点、もちろん麻酔に興味があったから。それに大きな科では人数も多く女性は研修の時点で不利になる懸念があったからで

もある。ある人には「女性の場合には結婚しないと宣言しないとともに研修を受けられない」とも言われた。ある科では女性の入局を認めないという噂まであった。たとえ入局を認めてくれても研修がきちんと受けられないのは困る。その点麻酔科は女性の先生方も活躍されており、とともに研修できそうだった。私の場合は、大学病院、兵庫県立こども病院、(大学院を経て) 姫路循環器病センターでお世話になることができた。その間に女性だということ困ったことは、

基本的には無いのだが、いくつか気になることはあった。たとえば、宿舎。(今は大丈夫ですが) 当時、こども病院の研修医用の単身者用宿舎は、トイレ、風呂が共用なので、女性は入れなかった。それから、当直室や仮眠室。姫路循環器病センターの仮眠室は二段ベットが2つ一室に設置されており、数人で利用するようになっており、事実上女性が利用できる状況ではなかった。これは結局、その当時のK医局長や上司のC部長をはじめ多くの方の協力により女性医師用の部屋を確保することができた。感謝いたしております。同時に看護師さん用の当直室もでき彼らが喜んでいたので印象的だった。彼らはそれまで詰所の椅子で仮眠していたのだった。これらはどうも女性の医師や男性の看護師がいることを想定していなかったことが原因ではないか。

最近では外科系にも多くの元気な女性が進出してきて頼もしい限り。入局時の差別は無いようである。でも女性医師の場合、科を問わず出産育児の時期に full time で活躍されている割合はやはり少ないように思う。

男性であれ女性であれ基本的に能力に性差はないと思う。ただ、女性にとって結婚が第一の関門、さらに妊娠・出産・育児が第二の関門、さらに介護が第三の関門となるのではないかと。しかも結婚・出産は研修期間と重なってしまうことが多い。そのため研修が中途半端になってしまう例がある。一時中断してそのままになってしまう例もあると聞く。かつて某教授が「大学院生時代に学位・結婚・出産の三冠王をとるのだ!」とおっしゃられていたが、それも一つの方法であろう。

でも計画どおりにいくとは限らない。特に育児につ

いては、本人の頑張りもさることながらそれ以外の条件で診療・研究が続けられるか否かが決まってしまう。伴侶が育児に協力できるかあるいは近くに元気な親がいて子供をみることであればラッキー、そうでなければ保育所やベビーシッターさん探しも大変、金銭的にも厳しいということになってしまう。(共働きだと保育料は高額)。大学のはとぼっぽ保育所は医者の子供も預かってくれるようだが、一般に病院附属の保育所は看護婦の子供は預かるが医者の子供はダメなところが多い。やっと保育所が見つかったても大変である。子供はすぐ発熱するが、その場合保育所では預かってくれなかったりする。昔だと近所の方がさりげなくヘルプしてくださったのだが、今やそれも厳しい。例えば夜中でもポケットベルが鳴った時にすぐにヘルプしてくれる人がいないと full time で働くのには厳しい状態になってしまう。しかし、この条件は医者に限ったことではない。今の労働環境では育児中は一時仕事の量を減らすあるいは中断するのも仕方がないのかもしれない。女性医師もそれまでに研修をしっかりと受けておくのが望ましいし、もし研修を中断したのであれば研修をもう一度やりなおすくらいの気概が必要だろう。医師である以上トレーニングは必須である。またその機会をなんらかの形でバックアップする必要があるだろう。とはいえ、個人や上司、同僚、家族の努力・協力だけに頼るのは無理であろう。聞くところによれば子育て中の女性医師3人くらいで1つのポジションを分担する工夫をしている所もあるらしい。各 case で条件も違うし一概には決められないが、各料で一度考えなければいけない時期がきているのではないだろうか。